

地域医療は

秋厚労ニュース

住民とつくるもの

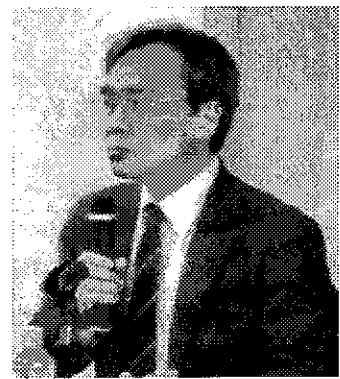
春闘決起集会

去る2月17日(土)、秋田市の「ルポールみずほ」にて秋厚労春闘決起集会が開催され53名が参加しました。北海道民医連事務局次長の近藤良明さんの講演では、住民の健康をまもるには、住民と一緒に地域医療をつくっていくことが必要なことを学びました。



秋厚労の2017年度の方針には、「支部を会場にした医療学習会で住民に医療や病院のことを知らせ意見交換する」と明記されています。講演の肝になる部分「住民の健康を守るには、自分達が学習し、現状を住民に知らせ、住民と一緒に地域医療をつくっていく」と共通するものがあります。

署名・国や県への要請行動で変える



講師の近藤さん

近藤さんは、秋厚労としても参加している、鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会の運動を高く評価されていました。

患者負担増えた

日本は、1980年代から医療、介護、年金、生活保障などの社会保障の改悪が続いています。特に2010年代は負担増ラッシュが目立ち、例

社会保障全般の改悪をくいじめよう

近藤さんは、生活保護の改悪は、「国民の最低限度の生活を守るための基準が下げられること、社会保障全般に影響がある」と警鐘を鳴らしました。大切なのは、医療だけでなく、社会保障全般の改悪をくいとめることです。

感想アンケートより

知る・伝えるって大切

- ☆ 食事代の1食460円は医療費の限度額がある人でも入院費が高額になるので大変なことです
- ☆ 住民と一緒に病院をもりあげていくことでよくなるのかな
- ☆ まずは知ることが大切。知らなければ声をあげることもできないと思う
- ☆ 患者さんの目線からの話ももっと聞けたら良いのかなと思います
- ☆ 知る・伝えることって大切
- ☆ 現状を理解し周囲にも発信して協力して闘っていかなければと思いました

例えば、医療は、「入院時の食事代の患者負担増」「紹介状なしの大病院受診で窓口負担増」、介護は「要支援認定を国の介護保険サービスから除外」、年金は「支給開始年齢の引き上げ」など。今は、生活保護制度の「母子加算、教育扶助の廃止・減額」が検討されています。

支部交渉準備してる

また、地域に必要なと思う医療を行う場合は、学習して住民に内容を知らせ、理解を得ることが重要と強調しました。そのうえで、制度化等の仕組みをつくるには、住民と一緒に署名・県、国に対しての要請などの行動で変えていこうと話されました。支部報告では、「定年後に関する学習会」「支部交渉の準備」などがありました。内外の人が働きたいと思う職場をつくるために、要求実現に向けて取り組みます。